

同日歸校
學校職員生徒百名
四日午後水原
氏(元總督府醫監將士)五日朝彌

[illegible]

白堊すゐね薰かほり閑古鳥かんことりは鳴なきつゝ

萬狀の幹振り大きいのは
 抱もあり小さくても三尺回り
 する其數は到底數へ切れぬ翠の
 枝は天を掩ふて緑
 父君の陵である
 宗王陵で 即ち 中宗王
 其の幽遠千古の概ある大深林が古
 近郊にある事は世人の多くは未だ

に貫通し射藝書畫も皆その妙を極

萬國遠の氣潮もて行人自ら精氣充
 概がある此の道を三四町も進む
 右方の廣き芝生の間に朝暉華表の
 芝生の隅隅には松林が顔くち
 には無數の野花が閑く咲に草の
 生は殆んど一投足を歸
 せしむる程美麗である遙

此の時代に編纂されたものである
 且つ士を待し人を用ふる事に尤
 意を竭し人材を發掘し士氣を振作
 ること常々人君の及所ではなかつ
 而し太平の盛世に於て陷り易き
 は紀綱の頽弛と風俗の奢逸に由

大野郎の古傳で有名な東國
 大野郎や東國通や東文選や樂家
 絶、帝王明鑑、后妃明鑑等の諸書

方前二は

馬は
馬は

馬は
馬は

を繞つて古色蒼然陵は麗式であつて京城附近には珍すべきものである陵前の祭石の如く横一丈餘縦三尺八寸厚さ三尺餘の大なるものである之れは李朝第二代中宗王の墓で靖宗の稱する此の陵前を過ぎては四五町も進むと松林は更に益々濃くなり道が一日も

●京の花は散つた、東山一帯は果すつかり青葉に包れて了つた、都蘭も終りである、しかし行く春の情態を歌ふのはからである

●京の女はこの頃から少しくアクリい色彩がなけて行つて初格更衣と次艸に消楚な姿を見せるのである

●馬廐の太夫道中、東寺の満ち

てゐる、活潑な

移る、遊も

随つて

●前

す美

陵形の花の大根の葉を背景にし

上は一面の白堊嶺に二
 五六千人も容易に容るべき芝生
 高い能が、りの舞臺で七
 百年以前に始まつた古雅な
 無言の仕方狂言が演ぜられ
 所園
 あり

けたと云ふ
 じんせんかう
 喜泉の願
 うにせく

程であつた。だから其の陵の立派な事も他に餘り見ない程である王は在位二十五年三十八歳で逝き此の地に葬られ、實陵と稱したのである中宗は成宗の第二子廢王燕山君に次で即位した燕山君に付ては小説的の面

仁川港を距る三四十里北西朝鮮青島津にて先月申旬頃小艇たるが仁川水産會社久保田教育上の委託にて仁川零に對し該船の中宗を朝しに學校にては目下乾燥中では上駟に着きたるまゝにて七分の一位ひにて白く兒

又足立正氏は兒童の入學記念

江戸の王様にもつゝ人々が松林十
 九年五十七才で薨じ、遠陵の松林十
 古の色をたれ、茂藪の野花は笑まし
 氣に淋しく人の來るを待つ、陵前當年
 を追憶して兩王の在卅當時を偲よの
 も又た興ある事であらう

●新緑の京仁線
 櫻の京仁線も時の推移と共に新

五日は端午の節句にて仁川
 轆や雌が樹てられてゐる六
 と言つて二十四年の一、夏
 初めで其の鳴禽も漸く聞

●節句と立夏
 節句出て第
 蛙の音も聞
 御式簾駁版一組を寄附し

「老師は臨終の約一時間前、即ち五時に至り、痛く死期の近付けるを感じを與へた。」

新嘉坡あたりでは
 電車
 京都
 大御間温泉
 乗じて之も時間の都合で序で嵐山に到る。嵐
 乍ら暖晴野の狙く春を訪ねて嵐山に包まれ水
 乍る聖蹟で遇ふに春若楓は大堰川の緑
 光うららかな野を行く嵐山を浮かべ軟かき初
 電車は壬生狂言と共に超然橋を弄らせてゐる

水
 水彩画を見る心地する

花
 花は野の彼方此方に美しく咲き初め
 富平平野は雨後の春草肥れて

長閑絶頂天。
 七十七年
 末

野の狙く春只これ

大宮から嵐山電車に
 にも京都らしく都名
 の木版を見るやうで
 日の影、長閑な様子
 餘の小道を賣り曳や
 網の假面は前々席
 れてある静かな歩み
 沿道の風色は静寂を極め
 出園の趣味溢してゐる
 寺の煙突は帽子の注水
 小町の薔薇折柳社の建木若
 葉、風曳る庭殿戸の蔽つて
 見事なこれらを前後に見
 行でも鼓の響きを
 踏に富める此邊一
 何處行つても飽く
 處である歸途も便
 車により四條大橋
 電車に乗る、電車
 外を見れば鴨川
 の光を漂はせ、快
 つてわたり疾に

ALL INFORMATION CONTAINED
HEREIN IS UNCLASSIFIED
DATE 08-01-2001 BY 60322
UCBAW

[illegible]

なしにいたします。

川と
 じ
 む
 には
 立夏
 日で
 味は出ません

第一に茶を煎じる水を選ぶこ
 と、

温度を適當にする
 事です。またお茶の分量も注意い
 たさなければなりません。水は有機
 物の多い臭味のあるものは勿論い
 ませんが又蒸留水のやうなものでも
 味は出ません。硬水は無論ありま

飲まうならは一日
 命でさまして指で

句、
に急須に注ぎますと
◇お茶の味のよい物質が溶
れて大へん風味がよくなります。分
量：王露ならば急須に二匁五分ほど
の茶を入れて、加減のよい湯をそ
して五分程置いて飲めば一帯味がよ
ろしい。普通にお茶ならば八匁位入
るの急須に一匁五分位入れて熱湯をそ
せばよい序にお茶の毒を見分ける

ては、急須に注ぎますと
に急須に注ぎますと
◇お茶の味のよい物質が溶
れて大へん風味がよくなります。分
量：王露ならば急須に二匁五分ほど
の茶を入れて、加減のよい湯をそ
して五分程置いて飲めば一帯味がよ
ろしい。普通にお茶ならば八匁位入
るの急須に一匁五分位入れて熱湯をそ
せばよい序にお茶の毒を見分ける

王子のサンドキツチ

[illegible][illegible]

五四部隊歸還
安部... (text continues)

露國大革命書報(五)

露國大革命... (text continues)



自由の風

革命後の露都... (text continues)

大野遊會

準備成る... (text continues)

劇業自殺を企つ

二日後三時... (text continues)

厄介な外交員

平本町... (text continues)

三人を滅多斬

去月二十九日... (text continues)

二天寫真来る

五日黄金館に... (text continues)

京日案内

本館... (text continues)

露國大革命書報(五) 死傷者收容所... (text continues)

厄介な外交員... (text continues)

三人を滅多斬... (text continues)

二天寫真来る... (text continues)

京日案内... (text continues)

臨時大會催... (text continues)

公開... (text continues)

自由の風... (text continues)

大野遊會... (text continues)

劇業自殺を企つ... (text continues)

厄介な外交員... (text continues)

三人を滅多斬... (text continues)

二天寫真来る... (text continues)

京日案内... (text continues)

百五十五 小林蹴月作 武内桂舟畫

原町の屋敷へと思がせたのであるが、江戸川の橋を渡つて、坂の多い小石川の地域内へ入つて、彼の佛通院の前通りへ差違つた頃から、自転車に乗つて、袖子の襦の後ろから、見ながら、これに懷き従つて来る一個の男があつた。袖子は、固よりそれと氣付ふ筈もなかつたのであるが、原町の屋敷近くへ來てから、男は遙かに自転車の速力を速めて、一目散に袖子の体を駆け抜けて了つた。けれども、差違は違つてオヤと思ふ間に忽ちその後影は闇に没した。

袖子の屋敷へ歸り着いたのは、彼は十二時間近であつた。女中どもに夜の仕度を爲せて、寢間へ入らうと思ひながら、常例の葡萄酒を一口飲みながらして居ると「奥様、まだお寝みにはなりませんですか」と、四時を擧げるやうな低聲で、そらりと奥へ呼ばれた。

「なに、爲て居る。」

「妾に聞きたい事が有りの？」

「事か知らないけれども、明日で下さいよ。御前のお留守な晩に男が寢間近くへ来るなんて、ないことですかね。」

「ハッ、ハッ、そりや大きに御座います。私がのお伺ひい申すのは、其處なんぞ御座してはい。」

「何かに知らないが、お前妙な女。」

「お言いだね。其處なんぞ御座すとは、何處なんぞ。」

「へい、其處が即ち其處なんぞであらう。御前のお留守の晩には逢ひ御座いませんが、奥様の留守の晩に、壯い男の遊びにお在になりますのは、そ

[illegible][illegible]

松丸太各種荷揃
龍山印刷局前(電話五二番)
竹村材木店

[illegible][illegible]

報彙鮮朝

朝鮮彙報 大正六年五月號 (定價貳拾五錢 郵税二錢五厘)

主 要 目 次

口繪 本府職員及忠清南道の記念植樹
金剛山海金剛の勝景
黃州公立普通學校生徒の柵欄細工製作

發電水 力調査 遞信局

穀類貯藏中に發生する害虫驅除法 村田三等藥劑正

森林副產物たる植物性油脂 植木農林學校教諭
富家開城出張所長

高麗人蔘の今昔 一行 政 黃海道行政區域名稱一覽表 關稅及金關 歐洲戰爭と
物價 大正五年加工貿易狀況 大阪對朝鮮貿易 三月中
朝鮮貿易 二月中經濟概況 一 產 第六回記念植樹成績
平北泰川郡に於ける採漆事業 綠肥作付反別及收穫高
大正五年養蠶及柞蠶事業 水稻害虫の被害 收穫機
範林の狀況 大正四年内地人農事經營狀況 シンナムエ
キス製造及應用法 交通及土木 遞信事業概況 三月中鐵道運送
輸 學 國民性の涵養 司法及醫藥 タンガスステン 鑛に關す
の弊害と其の取締 咸北對岸蔚山地方の手續

樂浪古墳の出土物 不 息 庵 乾

金剛山と其の風景開發策 田村明治神宮造營局囑託

外國事情 戰後に於ける主要金物の市價の豫想並其の激變
に對する應急策 米國大學の軍事教育 地方通信 雜
報 叙任及辭令 統計 法令及通牒 判決例

投稿を歡迎す 原稿締切期限毎月十日

販賣店 朝鮮各地の書店にて販賣す

廣告料 一百十圓 取扱店 京誠 ウソボヤ書籍店

仁丹

散歩に
召上れ

●毎朝のむ仁丹終日愉快

金言
（名真正の自由
來る者と共に
ベツリル）

新英略語 三六二
九八號 タイヨ一萬年毛筆 （特價六十四錢）

本品が從來有り觸れたるものと異り頗る精兵無比、構造堅牢にして永く使用に耐ゆる事は既に定評あり、穂首の取換自在なれば實用に適し且つ經濟なり尙普通の毛筆より高尙優美にして一度墨汁開明墨を入るれば端書三百枚迄は書き得るを以て携帶用として亦事務用として頗る便利也旅行家外勤家には最も欠く可らざる必要品なれば是非一度御試用あれ

▲替穂壹個 金八錢 ▲スクリツツ壹個 金五錢

△團體若しくは合同にて一打以上御求の方は特に割引の御需に應ず

發賣所
京城大平通一丁目
振替京城三〇〇番
會社 京城市報社代理部

[illegible]